

◆◆◆◆◆ 2019年6月22日(土) 午後の部 ◆◆◆◆◆

≪講演5≫

「ワーキングメモリと学習支援」

【日時】2019年6月22日(土) 13:00~14:30 (90分) 【会場】淡海⑨⑩
【講師】河村 暁 (発達ルームそら)

【講演要旨】

子どもが学習を行うときに頭の中で一時的に情報を留めておく働きは重要なものです。例えば、2桁の数の暗算では十の位を計算している間に一の位が何かを覚えておく必要があります。「四時四十五分までがんばろう」と期限を切って集中力を高めようとするときも何分までかを覚えておく必要があります。このように、ある目的のために何かをしながら何かの情報を覚えておく働きをワーキングメモリと呼びます。ワーキングメモリの働きは読み書きや算数などの成績と関連することが示されていて、またLDのある子どもではしばしばワーキングメモリに困難があることも示されています。したがって学習支援の際にその働きに注目することは非常に重要です。ここではワーキングメモリの仕組みやLDのある子どもにおける特徴、ワーキングメモリの把握の仕方、ワーキングメモリの特性に配慮した読み、書き、計算などの学習支援のアイデアや方法を考えていきます。

◆◆◆◆◆

◆◆◆◆◆ 2019年6月22日(土) 午後の部 ◆◆◆◆◆

≪講演6≫

「算数障害の理解と指導」

【日時】2019年6月22日(土) 14:45~16:15 (90分) 【会場】淡海⑨⑩
【講師】熊谷 恵子 (筑波大学人間系)

【講演要旨】

算数障害には、歴史的な概観から、①数処理、②数概念、③計算、④数的推論(文章題)の4つに分けて考えることが妥当である。①数処理とは、数詞・数字・具体物の対応関係が成立しているかどうか、どこの対応関係ができていないのか、②数概念とは、基数性もしくは序数性が成り立っているかどうか、③計算とは、暗算あるいは筆算においてどのような問題があるか、また、④数的推論は、操作的には文章題を解く場合に、統合過程(具体的な事象を視覚的にイメージできるか)、プランニング過程(数字の関係を演算子で表すことができるかどうか)となる。

これらの元になる知的能力を構成する認知能力には、WISC-IV等で得られるような言語理解指標、知覚推理指標、ワーキングメモリー、処理速度、という感覚様式に関係した能力が関わっていると同時に、単にワーキングメモリーだけではなく、継次処理という順序性、系列性を軸とした処理能力、あるいは視覚認知だけではなく、同時処理という複数の刺激を同時に統合する処理能力も関係がある。また、プランニングは、文章題の立式に重要である。特それらがどのように絡んでいるのか説明し理解を深めたい。

◆◆◆◆◆

◆◆◆◆◆ 2019年6月22日(土) 午後の部 ◆◆◆◆◆

≪講演7≫

「読み・書きのアセスメントと支援」

【日時】2019年6月22日(土) 13:00~14:30 (90分) 【会場】淡海⑦⑧

【講師】河野 俊寛 (金沢星稜大学人間科学部)

【講演要旨】

学校の通常学級に在籍している読み・書きに困難がある子どもは、全く読めなかったり書けなかったりする子どもではありません。すらすらと正確に読んだり書いたりができない子どもです。読み・書きの正確さと流暢さ(速度)に困難がある状態です。したがって、読み・書きの正確さと流暢さを測定することで、読み・書きの困難さを評価することができます。同学年の子どもの読み・書きの正確さと流暢さの平均値と標準偏差を使って比較し判定します。そのように、読み・書きの正確さと流暢さを数値化することで、読み・書きの困難さを視覚化することができます。その結果、読み・書きの困難さを客観的に理解することができるようになるため、支援も、根拠を持って具体的に考えることができるようになります。本講演では、読み・書きのアセスメントと支援の方法を紹介します。

◆◆◆◆◆

◆◆◆◆◆ 2019年6月22日(土) 午後の部 ◆◆◆◆◆

≪講演8≫

「読み書きに障害のある児童生徒のICT活用と移行支援体制の構築」

【日時】2019年6月22日(土) 14:45~16:15 (90分) 【会場】淡海⑦⑧

【講師】近藤 武夫 (東京大学)

【講演要旨】

特異的学習障害(読字障害、書字障害)や重度の発達性協調運動障害など、読み書きに困難のある児童生徒が学ぶ機会を保障し、中等教育以降の教育課程へ進学する機会を保障する上で、ICTの活用(キーボード入力や音声入力等の書字の支援、音声教材や音声読み上げ機能などの読字の支援等)が効果的な場合がある。通級や通常級、試験や入試などの場面で、どのような指導や合理的配慮、環境整備を行うかについて、通級から通常級へ、学校から家庭学習へ、そして次の学年や教育段階への移行を見据えた体制のあり方について学ぶ。

◆◆◆◆◆

◆◆◆◆◆ 2019年6月22日(土) 午後の部 ◆◆◆◆◆

《講演9》

「小・中学校の先生に知ってほしい高等学校の現状と移行支援」

【日時】2019年6月22日(土) 13:00~14:30(90分) 【会場】淡海⑥

【講師】笹森 洋樹(独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所)

【講演要旨】

平成30年度から高等学校においても通級による指導が制度化された。高等学校ではこれまでも、課程や学科など多様な教育制度を設け、学校設定教科・科目の設定、支援員の配置等により個々の指導・支援に取り組んできた。特別な教育的ニーズのある生徒の円滑な自立と社会参加に向けて、通常の学級においても適切な指導と必要な支援が行われるために、わかる授業づくりや生徒指導、教育相談の充実、校内支援体制づくり等に通級による指導が活かされることが望まれる。通級による指導が高等学校まで広がり、小学校、中学校と支援の連続性が確保されたが、学習面や生活面の課題、情緒面等心理的不適応の課題、いじめや不登校の課題、進路選択に関する課題等、高等学校における喫緊の課題がある。生涯にわたる切れ目のない支援を実現するため、小・中学校の先生にも知っておいて欲しい高等学校の現状と移行支援について話題とする。

◆◆◆◆◆

◆◆◆◆◆ 2019年6月22日(土) 午後の部 ◆◆◆◆◆

《講演10》

「発達障害者の卒業後の支援と社会資源～就労に必要な力を踏まえて～」

【日時】2019年6月22日(土) 14:45~16:15(90分) 【会場】淡海⑥

【講師】藤井 茂樹(びわこ学院大学教育福祉学部[♯] -ツ学科)

【講演要旨】

滋賀県における福祉担当者、就労担当者を交えてシンポジウム形式で進める予定である。

まず、藤井から滋賀県における発達障害児者への教育的対応の現状と課題、次に行政の立場から発達障害者への就労支援の現状と課題、最後に具体的な発達障害者の就労・生活支援事例を報告する。3者の報告後、卒業後の就労支援の在り方を、就労に必要な力の育成から検討する。また、社会的資源の活用からどのような支援ができるのかを、生活面と就労面を踏まえて検討したいと考えている。

◆◆◆◆◆

◆◆◆◆◆ 2019年6月22日(土) 午後の部 ◆◆◆◆◆

◀講演 11▶

事例検討(ワークショップ)

「学習のつまずきを明らかにするために～アセスメントから支援へ～」

【日時】2019年6月22日(土) 13:00～16:15(180分) 【会場】淡海⑤

【講師】村井 敏宏(学校法人 青丹学園 フラータルL.C.) 他

【講演要旨】

今回は、学習障害が推測される小学生の模擬事例を基に、誤り分析を中心としたアセスメントをグループワークで実際に体験します。「ひらがな単語聴写テスト」や「漢字まとめテスト」の結果を分析することによって、子どものつまずきの背景要因に迫っていきます。また、アセスメントの結果に基づいた個別の指導計画を作成し、適切な教材選択や指導上の留意点についても考えていきます。実際の支援に生きるスキルを磨いていきましょう。

◆◆◆◆◆